

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

協働と交流のまちづくりの拠点として

さんぶの森交流センターあららぎ館

建築主：山武市

設計：株式会社千都建築設計事務所

施工：古谷建設株式会社

所在地：山武市埴谷1884番地1

4町村合併により誕生した新しいまち「山武市」に生まれた総合交流センター。多くの人々が自由に集い、さまざまな人との交流をうみ、地域の賑わいを作り出すことを目指している。地域の行政窓口となる山武出張所と市民のコミュニティー活動を支援する活動スペースからなる交流センター棟、地産の山武杉のバイオマス利用の促進を目的としたバイオマス体験棟、屋外活動のためのジャイアントシェルター棟とで構成されている。

山武杉の美しい森を背にした広々とした敷地に建つ平屋建ての交流センター棟は、玄関前に大きな屋根を持つ車寄せを設け、コミュニティバスや乗り合いタクシーで訪れる人々を雨や風から守り迎え入れる配慮がされている。多くの機能を持つ交流棟は、ホールを中心として左手に山武出張所、右手に市民交流サロンと初めての来訪者にもわかりやすくシンプルな平面計画となっている。可動間仕切りを多用した市民交流サロンは、中央のホールにも連続、使用目的によってフレキシブルに対応可能で、今後の多様な市民活動に大いに役立つであろう。

バイオマス体験棟は、近隣小学校の総合学習や環境教育の場としても活用されているという。多目的広場、ジャイアントシェルター棟も一体となってセンター全体に賑わいが見られる時に再度訪ねたい。

(夏目 幸子)



外観全景



ホールより多目的室

選考の基準

1. 千葉県内において完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物(群)でこの表彰の趣旨に沿っているもの。
2. 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物(群)であり次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺的环境に十分配慮され、建築物(群)と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により、上記①の維持・向上が実現できているもの。
 - ③だれもが、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、日常生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
 - ④環境と共生する優れた社会資産を形成するために、エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して、健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
3. 建築基準法などの諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学大学院教授

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学大学院教授

委員 青柳 英俊：社団法人千葉県建築士会会長

委員 岡部 明子：千葉大学大学院准教授

委員 夏目 幸子：建築家・NPO 住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士・千葉大学非常勤講師

【敬称略 委員は五十音順】

第18回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。応募総数108点の中から6点が千葉県建築文化賞、3点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

(千葉県建築文化賞選考委員会事務局)